ふるさと歴史アラカルト

岩国の昔ばなし2　金正院の内裏雛

その昔、錦見の白銀屋孫三郎という商人が、広島の和泉屋という商人の娘を妻として迎えました。その際、和泉屋では何代にもわたって伝来していた雛人形を与えて嫁入りをさせたそうです。しかし、その娘は間もなく亡くなってしまったため、雛を入札で手放すことにしました。その結果、鍛冶屋町（現在の岩国二丁目）の長谷屋助右ヱ門が買い取ったのですが、雛があまりに大きかったために次の買い手がつかず、長い間、助右ヱ門の店にありました。その後、文化11（1814）年2月12日ごろ「体は人形遣いに売って、衣装は袋物（袋状の入れ物）などに仕立てて、ばら売りにするのが良いのではないか」という買い手がおり、助右ヱ門はそれに同意しました。ところが、15日の夜から、助右ヱ門の家でどこからともなく泣き声が聞こえ、簫（笛の一種）のような音がして、また次の夜も同じことが起こりました。そこで、近所の人たちと相談して、家の中をいろいろ探し、床板も剥がしてみましたが、何も見つかりませんでした。さらに詳しく調べていくと、戸棚の中から聞こえるようなので、開けてみると雛櫃（箱）があり、その中から聞こえるという結論になりました。ふたを取ってみると、女雛が額から汗を流して泣いており、皆が奇妙な思いをしたそうです。その後、これを伝え聞いた大勢の人々が集まるようになったため、助右ヱ門は雛を白銀屋へ返し、白銀屋はこれを金正院[※1]にあげることとしました。これが「金正院の内裏雛」です。

なお『岩国沿革志[※2]（怪談録追加・実事談）』編者の藤田葆は、幼いころに金正院でこれを見て、2・3歳の子どもくらいの大きさがあるため処理に困っていたのももっともであること、その後、住職に確認したところ、半分くずれ落ちていたために川へ流した、と答えられ惜しいことだと記しています。

※1 金正院…大明小路（現在の岩国一丁目）にあった寺で、明治に入って川西の観音院と合併し、現在、同名の寺が川西にある。

※2『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』…江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43（1910）年。

▲旧岩国城下図（錦見）（部分）（1866年）…○が金正院、○が鍛冶屋町

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7－19　☎㊶0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市　人口・世帯

人口	143,235 人【前月比 －89人】	男性　67,822 人	女性　75,413 人
世帯	66,768 世帯【前月比 －3 世帯】	※外国人人口を含む（平成26年1月1日現在）	

交通事故発生件数　12月分事故件数 72件（683件）　死者数 0 人（7人）　傷者数 94人（827人）
※高速道路発生分を除く　※（　）内は平成 25 年累計

広報テレホン　休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス　☎㉓1234

目の不自由な人へ　「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ　☎㉙5016　FAX㉑3337